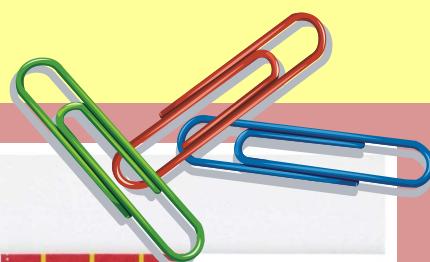


2013年3月号に掲載されました



病院
 ギャラリー



↑8階の病棟は女性専用フロアになっている。写真は同フロア個室
 ↑ピンク色にライトアップされたアクアリウム(水槽)が患者を和ませる



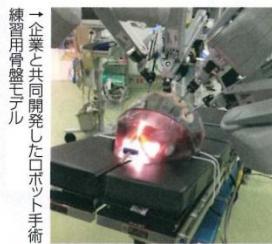
→女性外来を設けたレディースセンターのテーマカラーはピンク色
 ↓シックな色合いがもたらされた大部屋



↑地下1階の検査フロア



↑外来受付と診察室を配した廊下には青色にライトアップしたアクアリウムが



↑企業と共同開発したロボット手術練習用骨盤モデル

→内視鏡下手術支援ロボット「ダヴィンチ」によるロボット手術の様子。iPadを積極的に導入するほか、患者画像をもとに3D画像を構築して手術のナビゲーションとして利用するなど、世界的にも珍しいシステムを採用している。



→私は大きな声でビジョンを示すだけそれをしっかり理解して実践してくれる。優秀なスタッフに恵まれている。志賀誠之院長

IMSグループ 医療法人財団明理会
東京腎泌尿器センター大和病院
 (東京都板橋区)
**医療の質とホスピタリティを備えた
 “骨盤腔内疾患” 専門病院**



2階正面の総合受付は、柔らかな照明によって明るいなから落ち着いた雰囲気

IMSグループに属する医療法人財団明理会(中村哲也理事長)は2012年7月、泌尿器科、腎臓内科を核とした骨盤腔内疾患専門病院「東京腎泌尿器センター大和病院」を開院した。内視鏡下手術支援ロボット「ダヴィンチ」をはじめ、最新鋭の医療機器と一流の専門医を配して、専門性の高い治療体制を築いている。

撮影＝関口宏紀

病院DATA
 IMSグループ 医療法人財団明理会
 東京腎泌尿器センター大和病院
 住所：東京都板橋区本町36番3号
 電話：03-5943-2411
<http://www.ims.gr.jp/yamato/>
 病床数：168床

→開放時間には自由に利用できる屋上庭園。昨夏はスタッフの暑気払いイベントを開催



→駅直結という好アクセスの同院。首都高速道路に面するため、設計時は騒音対策にも力を入れた



**泌尿器疾患への専門性を強みに
 「患者にやさしい医療」をめざす**

1976年、東京都板橋区に腎・泌尿器科の専門病院として誕生した医療法人財団明理会大和病院。結石破碎治療には特に定評があり、長く地域の医療ニーズに応えてきた。2009年、建物の老朽化に伴い東京都北区に移転したのを機に診療科を増やし、「明理会中央総合病院」として新たにスタート。一方で、大和病院跡地には12年7月、腎・泌尿器分野でさらなる専門性を有する新病院として「東京腎泌尿器センター大和病院」をオープンさせた。

「前立腺センター」「レディースセンター」「結石破碎センター」「透析センター」「低侵襲センター」の5部門を設ける同院。各部門に全国有数の専門医を配し、極めて質の高い医療を行う。特に注目を集めるのは、内視鏡下手術支援ロボット「ダヴィンチ」による前立腺がん治療だ。「ロボット治療において、日本は隣国の韓国に10年遅れている」と話す志賀誠之院長はその普及に自ら取り組んでおり、同院での手術実績は年間1000件のペースだ。そのほか、低侵襲レーザーや腹腔鏡を用いた治療・手術にも積極的に取り組み、患者の体を極力傷つけない患者にやさしい医療を追求している。なお、旧大和病院時代から全国トップレベルだった結石破碎治療は、現在も年間1000件以上の実績を誇る。

また、女性患者への配慮もこだわりの一つ。一般外来と切り離された女性外来や、女性専用

の入院フロアは好評だ。婦人科と泌尿器科の連携体制が特徴で、マンモグラフィ等、女性特有の検査は女性検査技師が実施したり、希望があれば女性医師の診察にも対応するなど、女性が受診を躊躇することのないよう工夫した。

**患者に選ばれる病院となるべく
 「ホスピタリティ医療」を実現**

都営三田線「板橋本町」駅直結、首都高速道路に面する地下1階地上8階建ての同院は、手狭ながらも患者がストレスを感じない空間を重視。患者とスタッフの動線が重ならない配置や明るい採光、防音設備などのほか、絵画や水槽、クラシック音楽による雰囲気づくりに注力した。

「日本一の泌尿器科専門病院をつくる」という法人の方針に惹かれて同院への参画を決めたという志賀院長。大学病院にも負けない、またはそれ以上の医療レベルをめざす一方で、スタッフには「ホスピタリティ医療」の実践を説く。現在、幹部職員が株式会社オリエンタルランドでの研修を終えたところ。今後はザ・リッツカールトンにも赴き、ノウハウをスタッフレベルに落とし込む研修を行っていく予定だという。

「当院スタッフが一堂に会した時に、15秒間目を閉じて『なぜこの仕事を選んだのか』を考えてもらいました。その『初心』を表現できる病院にしよう。これに共鳴できるスタッフと一緒に、患者に喜ばれ、選んでもらえる病院をつくっていきたい。日本国内にとどまらず、ますますすすのは「東アジア一の病院」です(志賀院長)